

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産学研究演習	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>限られた時間で、研究の基礎について理解してもらうために前半を研究の概説をし、後半を担当教員を決め、担当教員のもと、興味あることからテーマを決め、テーマに沿って研究計画書を完成するという構成にした。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>担当教員のもと、グループで課題を決定し計画書を作成するにわたり、そのプロセスで教員とのやり取りや学生間でのやり取りで、確実に研究能力が向上していった。コロナ禍で学生は遠隔で、図書館を使用することができない中で、最大限に資料を集め、教員の指導のもと計画書作成を実施した。教員としては限られた条件下で成果物から学生はよく頑張ったと評価している。構想発表会では、自らの学びをもとに積極的に質問したり、クリティークできていた。短時間ではあるが、研究の基礎を身に着けることができたかと判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的妥当性あり。コロナ禍により、リモートにおいての指導であり、学生も資料も図書館などで調べること、文献検索が困難であり、限られた資料の中での研究計画書作成であった。次年度もコロナ禍においてのリモートであるなら授業を工夫をする必要がある。教員にとっては例年に比べ物足りなさの残る指導内容であったが、コロナ禍での授業であり、限界があると思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

科目の性質上、例年は積極的に図書館・インターネット・新聞等を利用し、調べていた。しかし、コロナ禍で図書館の利用制限、資料集めが困難であり、多くの学生が思うように積極的に学習を進めることが困難であった。来年度もコロナ禍で遠隔授業による可能性を考えると学習の質担保のため、今から対応について検討する必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

総括評価としてはこの科目は例年実施方法は学習効果が上がり、学生の研究能力の基礎も身につく、良い方法であるので、次年度は対面で指導ができ、図書館も使用できるのであれば、例年通り実施するが、コロナ禍であれば工夫して質担保を考える必要がある。それぞれの担当教員が指導で多くの時間を割かれるため、バランスを考える必要がある。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キリスト教と生命倫理	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本学の教育基盤となるキリスト教精神に基づく人間観や世界観について概説する。また、生命科学と医療技術の急速な進歩により生命が人の手によって操作される現代、様々な倫理的課題が浮上している。胎児の権利の擁護、生殖補助医療、代理出産、人工妊娠中絶、出生前診断に関連した生命倫理に対する課題について説明するとともに学生間で討論を実施し、他者との価値観の相違も踏まえ、生命倫理に対して自己の意見を述べるができるようにする。生命倫理に関する倫理的見地から見た助産師が理解でき、活用できるようにする。本科目の一部は受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであり、そのことを念頭に入れて県への申請書に沿った授業を展開した。</p> <p>次年度も受胎調節実施指導員の資格を取るための読み替え授業の位置づけであることから、この形式で実施する予定である。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績は優秀で、討論とレポートの内容から教育の目的は十分達成できた。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容妥当性あり。生命倫理と助産師の役割については就職後も継続して考えていくことであり、現段階ではこの得点で良いと考える。職業選択については最初から助産師になるつもりで入学しているので、点数として低いのは問題ないとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方は基本的にはこの方法を継続して実施する予定である。学習の方向性については本年度、自分たちで調べ、討論するという時間を作ったことで、学習効果は高まったと判断する。図書館やインターネット、学術データベースの利用が例年は2/3の学生はできていると回答するが、本年度は2/3がしなかったと回答していた。次年度はすべての学生が積極的に図書館やインターネット、学術データベースの利用をし発表や討論に臨むようにしたい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

達成状況として目的は達成でき、学習効果も上がったので、授業の進め方は基本的にはこの方法を継続して実施する予定である。本年度はコロナ禍で図書館やインターネット、学術データベースの利用が2/3の学生はできていないので、次年度はすべての学生が積極的に図書館やインターネット、学術データベースの利用をして発表や討論に臨むようにしたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産診断・ケア学については学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。受講動機をみると「必須科目である」100.0%、「資格取得に必要なである」14.3%と本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。</p> <p>②本科目では、母性看護学の知識をベースに助産の専門知識が積み重ねられるため、既に持っている学生の知識を整理しながら、主体的に学ぶことができるように工夫した。今年度は、対面と遠隔のハイブリッド型で講義が開始し、学期の途中で一定期間、遠隔授業のみの期間があった。知識理解のための講義を遠隔にて実施し、思考判断と技能表現（助産技術の獲得）のための演習を対面授業で行うなど調整を図った。学生自身が自ら考え、意欲関心が得られるように、課題を提示して、個人ワークやグループワーク、発表、ディスカッションを取り入れるなどの工夫をした。</p> <p>③演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行った上で臨むようにした。実習において必須である妊婦健診や保健指導に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう模擬妊婦体験を行うとともに、基本技術の習得、妊婦と助産師役、第三者の視点も含め助産師外来のロールプレイを行い、知識理解を思考判断や技能表現に結び付けられるような内容を組み立て取り組んだ。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		達成された	達成された	やや達成された		達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は72.25点（±6.04）であり、成績のばらつきは大きくなかった。2名の学生が理想的レベル（概ね80点以上）に達しており、11名の学生が標準レベルに達していた。DPの目的別にみると、知識理解に関しては82%、思考判断に関しては67%、態度に関しては79%、技能表現に関しては79%の達成度であり、真面目に演習に取り組んでいた。また、知識理解、技能表現に関する点数が高く、思考判断については、標準レベルにやや劣る結果であった。知識理解で得られたものを十分に活かきれていない状況である。</p> <p>学生による授業評価の到達度自己評価においては、知識理解の観点、思考判断の観点、技能表現の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。平均値は4.3～4.7（点）、中央値はどれも5.0（点）であり、概ね肯定的な評価であった。「自分なりの目標を達成した」という項目における平均値は4.4点であり、学生自身は妊娠期という専門分野において、自分なりの目標を達成を概ねできていると考える。今後は、学生が知識理解をしっかり身に付け、思考判断を行い、演習に取り組めるよう関わっていく必要がある。全体的な評価として、各学生が専門職を目指すものとして、意欲的に学習に取り組むことができたのではないかとと思われる。</p>
---	--

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解、思考判断のほか技能表現、態度も含めた講義は必要である。学習到達度の自己評価の項目では、平均値4.3～4.7点（10項目すべてにおいて4.0以上）であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考え。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

受講動機は、「必須科目である」が100.0%、「資格取得に必要である」が14.3%とほぼ全員がまじめに講義や演習に取り組んでいた。また、DPすべてにおいてもほぼ標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であると考え。

③まとめ

以上から、内容的妥当性については問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

短時間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めていった。「授業の質の評価」では、5つの項目すべてにおいて、平均値4.6～4.9点、中央値5.0点の評価を得ることができた。成績においても、標準レベルに達している状況をふまえ、引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。今後も課題の出し方を工夫するとともに、思考判断力を身につけることができるような授業の組み立てを行うとともに、学生個々の理解度なども確認したうえで、助産ケアに必要な援助技術を習得できるように工夫していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値4.3～4.7点、中央値5.0点より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短時間で集中的に行われる授業の中で、さらに、学生が専門職を目指すものとして、総合的な力が向上していけるように課題やそのフォローを含め、講義・演習等の工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産診断・ケア学については学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。受講動機をみると「必須科目である」100%、本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。</p> <p>②本科目は、母性看護学の知識をベースに助産の専門的知識がより必要となるため、スムーズに講義に入れるように事前学習を提示し、取り組んだうえで講義に臨むよう促した。今年度は、対面と遠隔のハイブリッド型で講義が開始し、学期の途中で緊急事態宣言により一定期間、遠隔授業のみの期間があった。分娩経過の診断に必要な知識を修得する知識理解、診断とケアに必要なアセスメントを修得する思考判断の一部を遠隔にて実施し、主な思考判断と技能表現(助産技術の修得)のための演習は対面授業で実施するように調整をした。学生自身が自ら考え、意欲・関心が持てるようにDVD視聴や模型を使用し、主体的に考える機会を取り入れるなどの工夫した。演習に関しては、演習内容を事前に提示し、自己学習を行ったうえで臨むようにした。産婦人科診療ガイドラインや助産業務ガイドラインを中心に臨床での基準にそって、また科学的根拠を持って、技術を実践できるよう意識づけを行った。</p> <p>③実習において、必須である分娩助産や助産診断に伴う技術に関しては、より具体的にイメージができるよう基本技術に加え、デモストや事例を用いての演習を組み立てて取り組んだ。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された		達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①最終的な成績の平均値は70点(±7.6)でありばらつきは大きくなかった。2名の学生が理想的レベル(概ね80点以上)に達しており、7名の学生が標準レベルに達していた。DPの目的別にみると、知識・理解に関しては69%、思考・判断に関しては67%の達成度であった。小テストを取り入れるなど、知識理解が定着するように工夫した。理解が不十分な学生にはフォローを行うなど、次年度に向けて検討したい。また、技能表現に関しては100%の達成度であった。DVDを視聴しながら、またデモンストレーションを見学しながら、分娩進行の情報を捉え、アセスメントし必要なケアを考え実施することを繰り返し行った。内容的に専門的知識と思考判断を統合していく難しさもあったが、学生が意見交換を行うことで共通の理解を得られたと考える。幅広い思考判断・技能表現の修得には、経験と時間を要するため、実習などを通してより深めて行くことを期待する。</p> <p>②学生による授業評価の到達度自己評価においては、知識理解、思考判断、技能表現の観点での自己評価の平均値は4.5～4.7点、中央値は4.5～5.0点であった。学生自身は分娩期という専門分野において、自分なりの目標を達成できている(4.5点)と考える。態度においてはすべての学生が真剣に取り組んでいた。今後は、学生自身が自分の知識理解や思考判断をしっかりと身につけ、自信を持って、演習に取り組めるよう細やかなサポートを行っていく必要がある。</p> <p>全体的な評価として、各学生が専門職を目指すものとして、意欲的に学習に取り組むことができたのではないかとと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解、思考判断のほか技能表現、態度も含めた講義は必要である。学習到達度の自己評価の項目では、平均値4.5～4.7点（10項目すべてにおいて4.5以上）であり、また一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考えます。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性
受講動機は、「必須科目である」が100%でほぼ全員がまじめに講義や演習に取り組んでいた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。

③まとめ
以上から、内容的妥当性については問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

短期間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めていった。「授業の質の評価」では、5つの項目において、平均値4.7～4.8点、中央値5.0点の評価を得ることができた。
以上の状況をふまえ、引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。また、学生個々の理解度なども確認したうえで、助産ケアに必要な援助技術を習得できるように援助していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値4.5～4.7点、中央値4.5～5.0点より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短期間で集中的に行われる授業の中で、学生は真面目に授業に取り組むことができていた。さらに、学生の思考判断や技能表現が向上していけるように課題を含め、講義・演習の内容等の工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、助産学実習との関連が深い講義であると考え。そのため、授業で得た知識や思考をいかして対象に適切な技術の提供が行えるために、自ら学ぶ能力を養うことことを意図した学習計画を立案し臨んだ。講義では、産褥期の生理・褥婦の変化・産褥経過・支援方法について解説し、教科書を中心に進めた。その後、産褥経過にそった必要な支援について学生が思考判断しながら意見交換する時間を設けた。</p> <p>技術演習は、講義で展開した事例に対して、自らが立案したケア計画を実践できるように工夫し、妊娠期からの継続した支援の必要性に気づくことができるよう意図した。</p> <p>課題については、他科目の課題との関連性や提出時期などを考慮し、学生の負担とならないよう心がけた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は77点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。</p> <p>DP別にみると、知識理解に関しては70%、思考判断に関しては78%、態度に関しては81%、技能表現に関して92%であった。</p> <p>学生の到達度自己評価や授業の質評価の結果も、回答者全員が「そう思う」と答えており、集中講義であるため時間の余裕は決して多くない中で、学生も課題や自己学習にも取り組んでいたことが、目標達成につながったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「助産の実践領域」の中の「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断能力の他、技術表現・態度も含めた内容が求められる。受講動機は「必須科目である」100%であった。全員が講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では平均点は4.0点以上であった。また、DPにおいてもほぼ標準レベルに達していたことから、内容的に妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

長時間の講義では集中力を持続させることが難しいため、講義は解説だけでなく、意見交換や視聴覚教材も活用し、できるだけ変化のある講義を組み立てた。

その結果、授業の質の評価では回答者全員から「そう思う」という回答がみられた。

なお、課題については、範囲や量を他教科の課題との関連をふまえ、できるだけ学生の負担とならないよう配慮した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

全員が目標に達することができていた。到達度自己評価や授業の質の評価においては回答者も全員が効果的であったと回答している。また、数名は図書館や情報検索などの学習環境を活用できなかったものの、学生たちはできる範囲で、課題に取り組む姿勢がみられ、知識理解や思考判断の能力向上につながった要因の一つであると考えている。なお、次年度の学生は臨床経験が少ない可能性が高いことから、より思考・判断能力を活用した技術演習が経験できるよう工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学IV(新生児・乳幼児)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は他の助産診断・ケア学同様、臨地実習を前に短期間で集中して開講される。そのため、看護基礎教育（特に母性看護学）における知識や技術の見直しが必要であることから開講前に母性看護の知識や技術の復習として新生児期の身体面や発達発育面について事前学習として課題を提示し、知識の振り返りを行ったうえで講義に臨むよう準備した。講義内容については、褥婦や新生児をイメージしたうえで母子一体の看護の根拠や方法を理解することを意図して、身体的特徴や生理についての理解を視覚的に深めることを目的にDVD教材の活用、模型を使用した技術演習を取り入れた。さらに、グループで新生児の特徴的な生理機能についてまとめ、それぞれがまとめた内容を発表し、意見交換を行うことで知識や思考が深まるよう工夫した。また、乳幼児・ハイリスク児に関する病態生理や疾患、看護に関しては、より専門性の高い授業を提供することを意図し、学内の小児領域教員や外部の小児科医師やNICU看護師に講義を依頼した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は74点であった。再試験対象者は0名であった。全員が理想的レベルに達した。</p> <p>DP別にみると、知識理解75%、思考判断72%、態度80%、技能表現60%であり、すべて標準レベルを上回っていた。</p> <p>適宜、教科書や配布資料で重要点を示し、事例検討やディスカッションおよび看護演習を実施したことで、知識の定着、思考力の向上などにつながったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか、技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%であった。全員が講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では全てについて「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的に妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

短期間で集中的に行われる講義であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めてきた。一方的な講義にならないよう、自己の学びをアウトプットして深められるためのグループワークや全体討論を取り入れた。学生のアンケートからも、目標達成できたという回答がみられ、効果的に内容であったと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

到達度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生全員が目標達成することができていた。なお、次年度の学生は臨床経験が少ない可能性が高いことから、より思考・判断能力をいかした技術演習を経験できるよう工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	前田 幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①助産診断・ケア学については学生が机上での学習をふまえ、助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義を展開している。受講動機をみると「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」20%、「関心のある内容である」20%であった。本科目は必須科目であるとともに資格取得に必要な科目である。専門職を目指す者として意欲・関心を持って講義・演習に臨む姿勢が求められる。</p> <p>②本科目は、助産の基礎的知識に加え、周産期のハイリスクに関連する領域であり専門的知識がより必要となる。今年度は、対面と遠隔のハイブリッド型で講義が開始し、学期の途中で緊急事態宣言により一定期間、遠隔授業のみの期間があった。講義前に予習ができるように、講義資料の事前配布を行っていった。また、臨床の現場で活躍されている非常勤講師にオムニバスで講義をしてもらうことで、臨床での実践がイメージできるよう講義を組み立てている。技術演習(医師が担当)では、全学生が会陰縫合の技術を経験でき、指導が受けられるように配慮している。また、産婦人科診療ガイドライン、ハンドブックを活用し、ガイドラインに沿った学修ができるように配慮した。</p> <p>③知識理解や思考判断が技能表現である助産ケアの実施に結びつくように、シュミレーション演習等を行っていった。また、ハイリスク実習で経験するであろう疾患を課題として提示し、助産過程の演習をおこなった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>最終的な成績の平均点は77点(±5.1)であり、ばらつきは大きくない。7名の学生が、理想的レベル(概ね80点以上)に達しており、8名の学生が、標準レベルに達していた。「周産期のハイリスク」は、疾患についての講義がほとんどである。正常からの逸脱について知識理解を通し、思考判断について説明ができることを目標としているため、講義内容の専門性は高い。母性看護学の知識を基盤に、並行して学習する助産の実践領域である専門科目「助産診断・ケア学Ⅰ～Ⅳ(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)」と関連付けて学習することが必要である。</p> <p>学生による授業評価の到達度自己評価においては、知識理解、思考判断、技能表現の観点での自己評価について、平均値は4.2～4.6点。中央値は4.0～4.5点であった。正常逸脱に関する学修における理解するためには、予習・復習が必要であると考え。全体的な評価として、各学生が専門職を目指すものとして、意欲的に学習に取り組むことができたのではないかとと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「助産実践領域」のなかの「専門科目」であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では、平均値4.2～4.6点であり、一定の成績をおさめていることから、内容的には妥当であると考ええる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 受講動機は、「必須科目である」100%、「資格取得に必要である」20%、「関心のある内容である」20%とほぼ全員がまじめに講義や演習に取り組んでいた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>短時間で集中的に行われる授業であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、他教科との課題の調整や科目間の関連性を考慮した。「授業の質の評価」では、5つの項目において、平均値4.4～4.8点。中央値5.0点の評価を得ることができた。以上の状況をふまえ、引き続き同様の形式で授業を進めていきたいと考える。次年度より、新カリキュラムが始まり、厚生労働省の指定規則の中でも、周産期のハイリスク分野に対する学習の充実を図るように明記されている。そのためより一層、学生の学びを援助していきたい。また、正常領域の科目の授業も並行しているため、相互に関連付けながら学習していけるよう配慮する必要がある。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は助産の実践領域の専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより、到達度自己評価は、10項目の平均値4.2～4.6点、中央値4.0～5.0点、また成績より、概ね標準レベルが達成できているといえる。短時間で集中的に行われる授業の中で、学生は真面目に授業に取り組むことができていた。さらに、疾患や治療など正常からの逸脱について理解するためには日々の予習・復習が必要であり、学習量を確保することは常に必要である。今後、学生が学習時間の確保ができるように他教科と調整を図るとともに、正常領域と関連付けて学習していけるよう工夫していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学VI(健康教育演習)	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、助産師として身につけておかなければならない健康教育の技術を学ぶ。健康教育を実施するにあたり周産期における母児の生理機能だけではなく、健康逸脱予防についての知識や各ライフステージにある対象の特徴をふまえたコミュニケーション能力も必要とされる。そのため、助産診断・ケア学などの関連する講義で得た知識を活用できるよう開講時期を工夫した。特に、助産学基礎実習に必要な妊娠期・産褥期における母児の健康教育に関しては、授業で得た成果を実習でいかすために前期に計画した。また、できるだけ実践経験をえられるよう、後期には高校における健康教育実践の機会を計画した。</p> <p>学生指導においては、担当教員を決め、少人数を受け持ち、学生個々のペースを配慮した指導を心がけた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は87点であった。再試験対象者は0名であった。全員が理想的レベルに達した。</p> <p>DP別にみると、知識理解89%、思考判断90%、興味関心73%、態度100%、技能表現83%であり、すべて標準レベルを上回っていた。</p> <p>学生アンケートから、到達度自己評価に関してはほぼ全ての学生が中央値に近い評価であり、目標を達成できたという自己評価が見られた。</p> <p>予習復習の時間もほぼ全員が確保できていた。これらのことから他の科目の課題が重なっていたものの、自己の課題や本科目で得られた知識を臨床などにおいて、対象者や高校生に提供するという明確な目標があったことが学習のモチベーションを上げる原動力となり、目標達成につながったと考える。さらに、担当教員との個別的な指導の機会を設けていたことや授業の中で他の学生とのディスカッションの時間を持つことができたことや、今年度は昨年に比べ、臨床において保健教育を行う機会が得られたことも要因であったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%であり、ほぼ全員が講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では全員が目標や課題達成について「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的に妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生がある程度の関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、科目間の関連性や講義の順序を考慮して講義を進めてきた。学生のアンケートからも、ほぼ全員の学生が予習や復習を行っており、効果的な内容であったと考える。また、到達度自己評価も全員ほぼ全員が「そうだと思う」と回答しており、少人数を教員が担当し、個々のペースを配慮した指導を心がけたことも要因であると考えられる。本科目はコロナ禍であったものの、対面授業で実施することができた。技術演習やディスカッションなどを実践的に行えたことで、意欲が高まっていったのではないかと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

到達度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生全員が目標に達することができていた。今後も、学生のペースを配慮した指導を心がけ、学生全員が知識や思考判断を伴った健康教育技術を修得できるよう取り組んでいきたい。なお、次年度の学生は臨床経験が少ない可能性が高いことから、より思考・判断能力を活用した技術演習を実施できるよう工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)	1	通年	必修	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>必修であるため、全員受講している。助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。この科目は助産診断をするにあたって各科目の知識がすべて必要で、助産過程の演習時にはまだ、知識が浅く、知識が助産診断に直ぐ結びつかないで、自己評価の点数が低いのは、仕方ないと判断している。実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。また、実習において、分娩介助1例目より、分娩介助10例目では助産診断・助産過程の展開がスムーズに行えるようになっており、助産診断・助産過程の基本はこの科目でできていたと判断する。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期各期の事例の展開を担当教員の指導のもと、実施することで、的確な情報収集、アセスメント、診断、計画ができるようになった。また、各期において代表者が発表し全員で討論する、全教員がコメントを言い、それをもとに修正するなどを行った。成績は7割の学生が80点以上であった。また、実習(学内実習含め)において、受け持ち事例で、助産診断、助産過程がともに展開できたことをもって達成できたと判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的妥当性がある。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

カリキュラムの性質上、実習前に関連講義を全て済ませておく必要があり、授業が詰め詰めで、学生は課題に追いつけられない状況が続いているが、中でも課題提出の期限を守り、しっかり課題を実施していた。妊娠期、産褥・新生児期、分娩期でそれぞれの期で、アセスメント・診断・計画を展開するが、各期の展開をこなすのに学生にとって時間的に負担が多いので、コマとコマの間隔を課題に沿って配慮するように検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

助産診断過程についての講義は田中が担当し、事例を通して各期(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期)は学生各人に対して教員の担当を決め、マンツーマンで助産過程の指導を実施し、各期毎に学生の代表者に発表と討論させ、共通認識しながら演習を進めて行った。学生はマンツーマンの指導や他人の発表を聞くことで助産過程をより理解することができた。

実習で助産過程を展開する際、この科目での習得した技術により、助産診断・助産過程が全員出来ていた。

効果的であったため、次年度のこの形式で実施する予定である。各期の課題提出において、限られた時間の中で、いかに学生の負担を軽減し、目的を達成するか検討する予定である。出身教育課程の違いにより、学生のレディネスに差があるため、担当教員を決める際、十分配慮して担当を決め、指導することが必要である。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産管理学	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>病院・助産所における助産管理に必要な基本的知識を身に着けるため、助産管理の基本的概念と管理のプロセス、業務管理、助産業務に関連する概念や関連法規、周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害時の看護ケアなどについて臨床経験を活かし、事例を示しながら、国家試験も念頭に授業を展開した。資料は特に覚えなければならないことはカラーを使用するなどの工夫をして作成した。必修であり、国試受験に必要な科目のため、別科全員が履修している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	全員が成績は81点以上であった。また、レポートからも管理的視点が全員修得できていた。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的妥当性あり

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

コロナ禍による授業時間の変更、回数の減少により、詰め詰めの授業になった感あり。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

教育目標は達成できた。成績もよく、国試問題・国試模試の解答合わせについても全員よく正答出来ていた。次年度も同様の方法で実施するが、指定規則の変更で災害時の看護を取り入れる予定である。次年度は対面式での授業に戻る予定であり、対面での学生間の討論も活発にできると予想される。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域母子保健	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は助産師として、助産師として地域で母子保健を推進するうえで必要な母子保健行政の仕組みや制度、社会資源、保健医療福祉関係職種との連携等について、最近の動向を踏まえ、グローバル社会における今後の活動を展望する講義内容として計画している。本科目の意義を理解し、地域母子保健における意欲関心を深めていくことが必要である。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は、83.8 (80.9) 点であり、再試対象者はいなかった。標準的レベルに達した学生が100 (100) %であり、内、理想的レベルに達した学生は、87.5 (87.5) %であった。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては80.7 (80.0) %、意欲関心に関しては86.0 (86.0) %、態度に関して100 (100) %であった。成績の平均値は、前年度より上がっているが、対象の学生が違うため効果を測ることができないが、目標別にみると助産師としての地域母子保健を推進するうえでの意義については、今年度も学生の理解は得られていると考えられる。さらに全員の学生が十分理解し、授業にも関心をもって参加する状況に改善していきたい。学生の到達度自己評価においては、全項目において平均値が4.2～4.7 (3.4～4.1) となっている。</p>					
*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DP・CPカリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性

本科目は、知識理解、意欲関心、態度に位置付けられた科目である。知識理解に関しては8割、意欲関心に関しては8割、態度に関しては10割の学生が達成していることから内容的には妥当であると考え。オムニバスの科目であるが、講師の専門性を生かした授業展開となるよう授業内容の精査に努めたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価においては、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」が昨年度と同様高評価となり、授業展開において学生の満足度が得られている。また、他の項目においても、概ね学生の評価は得られていると判断できる。今後も学生が授業の質を高く評価できる授業運営に努めたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。

さらに、授業内容を精選に加え、学生の授業参加への仕組みを検討し、小人数の講義であるため受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。

リフレクションカード 2021年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子育て支援論	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>講義は子育て支援全般(子育て支援とは・目的・支援施策の歴史・諸問題と理論・現状・関連3法その他の法律)について概説した。また、母子関係への援助、親子関係、家族関係、親力、子育て力について概説した。一方的に講義するのではなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。学生は自分たちの担当県との違いなどについて討論した。</p> <p>効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>一方的に講義するのではなく、積極的に学習できるように母子保健施策として実施されている様々な子育て支援を日本を数ブロックに分け、担当ブロックを調査し、担当ブロックについて発表しデータを共有するとともにそれぞれの自治体の背景にあった子育て支援がなされている特徴を学生が、発見することができた。自分たちの担当県との違いなどについて討論した。学生はレポートから多くの学びを得たことが明らかになった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容妥当性あり。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については本年度学習効果が上がったため、次年度もこの形式で実施する予定である。授業の質評価は3.6～4.1であった。学習量については予習、復習をして授業に臨んでいる。図書館・学術データベースの利用が2/3が利用しなかったと回答している。インターネットの検索を3/4の学生が利用していた。これは課題の性質上の特徴であろう。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

達成状況から方法は効果的であったため、次年度もこの形式で実施する予定である。